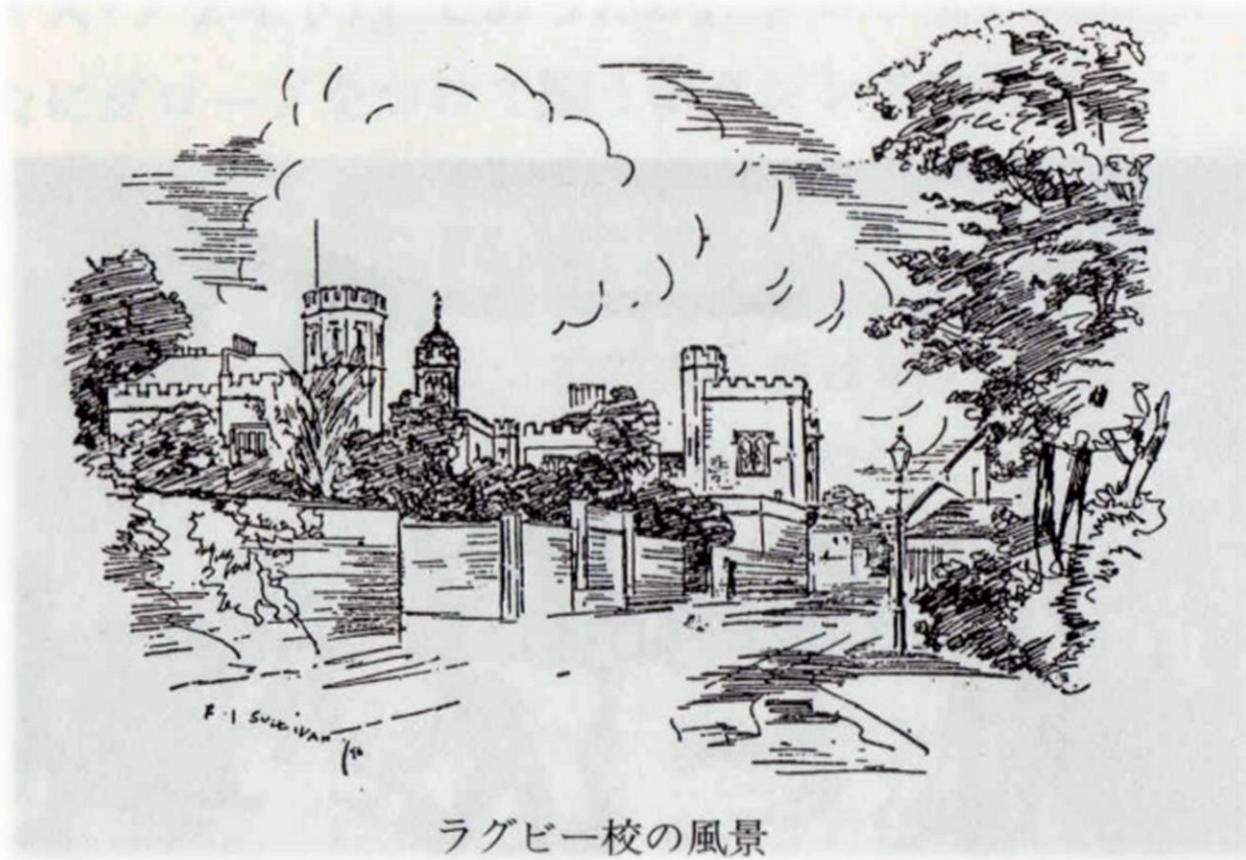


イギリスのスポーツ教育



ラグビー校の風景



前近代のパブリックスクール(public school)

私立中等学校
身体教育蔑視

地方の貧困・優秀児童

貴族の子弟

無料宿舎教育
イエス・キリスト
聖書・教会
古典語
(ヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語)

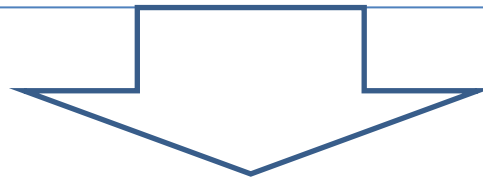
聖職者(村の教会神父)

都市の大司教



中産階級の教育熱

- 社会的地位と富の形成
- プロテスタント
- 勤勉・節約・キリスト教道徳
- 子弟の教育と相続



パブリックスクールでの子弟の
有料教育



近代パブリックスクール

エリート指導者養成機関:実務的能力

貴族や中産階級の子弟

数学、地理、歴史、現代外国語

寄宿制

プリーフェクト・ファギング制度

(上級生)・(下級生) 公・私的生活の世話

官僚、軍人、政治家、実業家、科学者、聖職者

*** キリスト教ジェントルマン**

*** 道德教育**

*** 身体教育重視**



近代パブリックスクールの問題

名門パブリックスクール

- 名門貴族の子弟
- 教師は身分の低い聖職者
- 教師蔑視
- 授業放棄・放蕩・決闘

新興パブリックスクール

- 新興中産階級の子弟
- 生徒は身分の低い成金
- 余剰エネルギーの発散
- 教室・宿舎・学校外でフットボール
- 多くの学校でフットボール禁止



ラグビー校の改革(トーマス・アーノルド)

パブリックスクール=市町村a-xの生徒 入学

マスフットボールa-x (ローカルルール)

ゲーム不成立

上級生と下級生の協議

議会制民主主義の導入

ラグビー校・ルール(1845)

共通ルール
ゲーム成立
成文法

相互責任
秩序回復
ゲーム運営

正課

課外活動
学生自治会活動



ラグビー校ルール(1845)

- 1.フェアキャッチとは足で蹴られたボールを直接捕球することである。
- 2.オフサイド。相手方がボールに触れる前に、後方の味方の誰かがボールに触れたなら、そのプレイヤーはオフサイドとなる。
- 4.ノックオンは、スローオンとは区別されるものであり、腕や手でボールを叩き続けることである。
- 5.ゴールトライ：
ボールは、バーを超えて、プレイヤーの服や身体に触れずに、ポストの間を通過しなくてはならない。タッチから蹴ったボールはゴールとはならない。



ラグビー校ルール(1845)

- 20.すべての試合は、5時以降は引き分けとするが、得点がない場合には3時までとする。
- 22ゴールの判定は、両チームのキャプテンあるいは寮長が行う。
- 24.両チームのキャプテン、あるいは、キャプテンの任命した二人の仲裁は、すべての問題を裁定するものとする。
- 26踵で脛あるいは脛より上の部位を蹴ってはならない。ハッキング禁止
- 27自陣の第一プレイヤーを除く、いかなるプレイヤーの脛も、スクラムを除いて蹴ってはならない。
- 28.いかなるプレイヤーも、踵あるいはシューズやブーツの底に釘や鉄板をつけたりしてはいけない。
- 31.何人も、寮長の許可なく帽子やジャージを着用してはならない。服装



ウェストミンスター校ルール

- ①空中にあるボールや最初のバウンド後のボールなら蹴っても良いし、またキャッチしても良い。
- ②相手に足をかけて倒すこと、相手の足を蹴ること、相手に身体をぶつけて倒すことは許される。
- ③ボールを持って走ることは絶対に許されない。
- ④ゴールは、蹴られたボールが二本の木の間を通過することによって得られる。
- ⑤ボールを手で打つことは許される。
- ⑥ボールがイン・タッチになったとき、プレイは「グリーズ」(ボールを投げ挙げること)あるいはスクラムで再開される。
- ⑦チームから抜け出したり、離れたりするのとは良くない行為と見なされる。しかし、ルール違反ではない。



フットボール・ルールの成文化を行った年

学校団体名	年代	項目数
ラグビー校	1845	37
イートン校	1847	26
ケンブリッジ大学	1848	11
ハロー校	1853	21
ウェストミンスター校	1850年代	9
シェフィールド校	1857	11
アッピンガム校	1859	10
チャーターハウス校	1860年代	7
ケンブリッジ大学	1863	14
ウィンチェスタ校	1863	13
フットボール・アソシエーション	1863	14



パブリックスクールグラウンドの広さの変化

学 校 名	1845年	1900年
ハロー校	8	146
マールバラ校	2	88
アッピンガム校	2	48
ランシング校	0(1848年)	14
ストーニーハースト校	2	32
ロレット校	0	22
単位(エーカー)		



大学の課外活動：

出身校によりルールが異なりゲーム不成立

ラグビー式(ラグビースクール=中産階級子弟)：

ランニングイン、ハッキング、トラッピングの肯定

running in

hacking

trapping

「手で持ち運ぶ」

「脛(スネ)蹴り」

「足掛け」

サッカー式(イートンスクール=貴族子弟)：

ランニングイン、ハッキング、トラッピングの否定

ケンブリッジ・ルール(1848)



卒業生の余暇活動

スポーツクラブの特徴

① 多様な社会階層の集合

* パブリックスクール・大学卒業生:

* 非パブリックスクール卒業生

(職業学校:会計士・計理士など)

② 施設、用具、ルール、技術・戦術、指導書の企画

③ 社交・親睦

専門的練習不要

「正々堂々と戦う」

サーブ権



スポーツクラブの対抗戦

会員の技能向上、交通機関の発達
クラブ対抗戦開始「**名誉**」

ゲーム不成立

クラブ代表会議

FA成立(1863)

パブリックスクール・大学卒業生：肯定

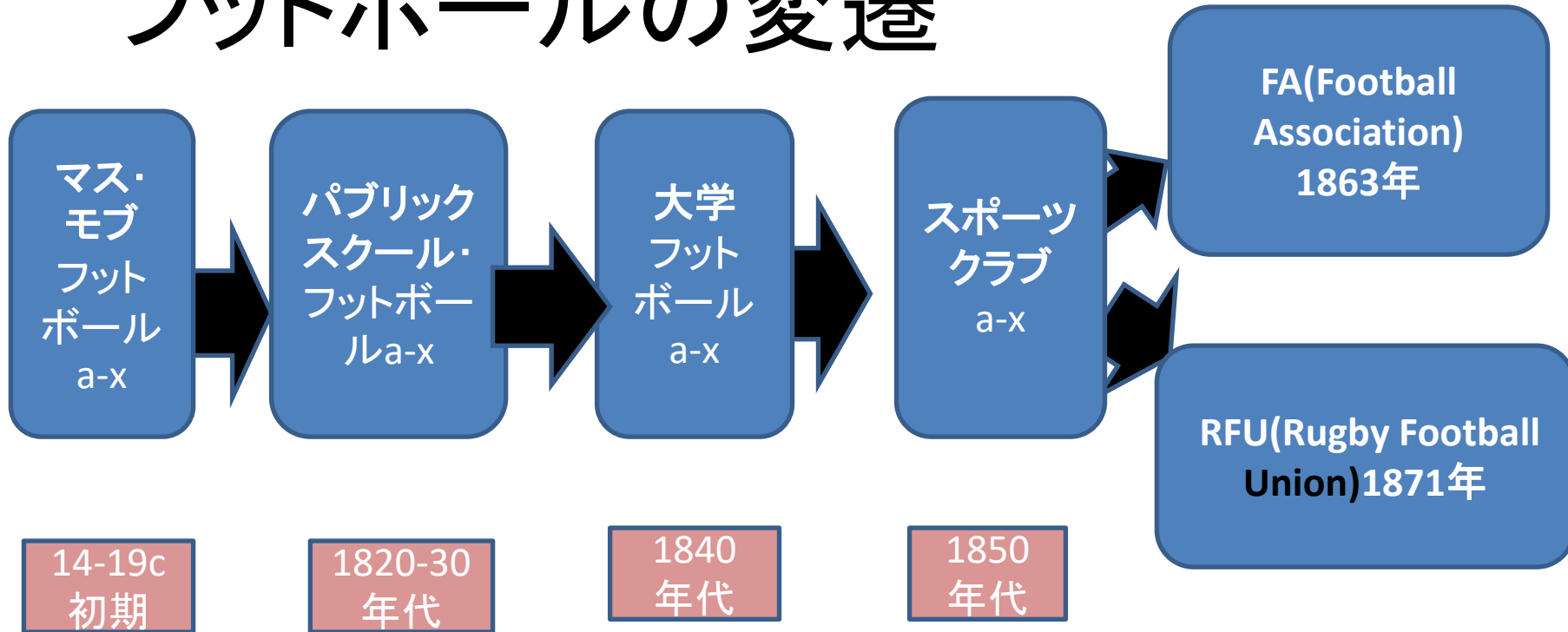
非パブリックスクール卒業生：否定

家族への責任：死亡・傷害厳禁

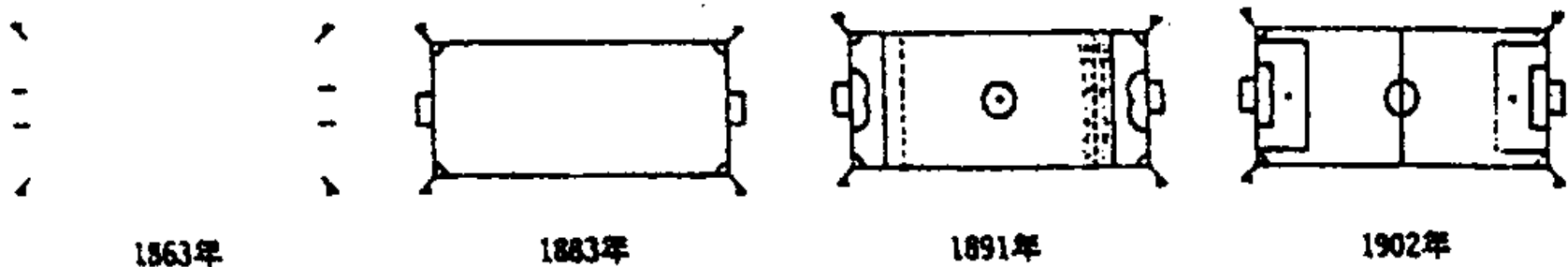
専門的な練習・技術・戦術の高度化
「社交親睦」より「**勝敗**」



フットボールの変遷



グラウンドの変遷



近代サッカーの成立

1863 10月 FA創立 12月 FA統一ルール作成

1872 第1回FAカップ開催 初の国際試合、イングランド-スコットランド

1885 FA、プロ選手を合法化

1888 イングランドに世界最古のリーグ(FL)誕生

1896 第1回オリンピック(アテネ)大会開催

1900 パリ・オリンピックでサッカーが公開競技

1904 FIFA(国際サッカー連盟)発足、加盟国は7カ国

1905 イングランド協会(FA)、FIFAに加入

1916 CONMEBOL(南米サッカー連盟)創立・第1回コパ・アメリカ(非公認)開催
優勝はウルグアイ

1922 日本サッカー協会創設

1927 初のラジオ中継(アーセナルvsシェフィールド)

1929 日本FIFAに加盟



フットボール・アソシエーション・ルール(1863年12月8日)

- 1.グラウンドは、長さ200ヤード、幅100ヤードを最大とする。長さと幅はフラッグで示される。ゴールは8ヤードの間隔のある2本のポストで作られ、これらを横切るテープやバーは用いない。
- 2.ゴールの選択はトスで決められる。ゲームはトスで敗れたチームが、グラウンドの中央からキックオフすることで開始される。相手側チームは、ボールがキックオフされるまでボールの10ヤード以内に近づいてはならない。
- 3.ゴールが得られた後、両チームはサイドを交代し、得点された側がキックオフを行なう。
- 4.ゴールは、ボールがどんな高さであってもゴールポストのあいだを通過したときに得られる。ボールがゴールに投げ込まれたり、ノックオンしたり、手で持ち込まれたりした場合、ゴールとは認めない。



- 5.ボールがインタッチになったとき、そのボールに最初に触れたプレイヤーが、ボールが境界線を出た地点から、グラウンド内に直角に投げ入れられなければならない。そのボールがグラウンドに触れるまでインプレイにならない。
- 6.プレイヤーがボールをキックしたとき、そのボールより相手側ゴールに近い位置にいる同じチームのどのプレイヤーもアウトオブプレイで、そのボールに触れることはできない。また、どんな方法によっても、彼がインプレイの状態にあるまで、他のプレイヤーのプレイを妨げてはならない。しかし、ボールが自陣のゴールラインの後方から蹴られたとき、プレイヤーはアウトオブプレイではない。
- 7.ボールがゴールラインの後方へ行った場合、もしそのゴール側のプレイヤーが最初にそのボールに触れたならば、そのチームにはゴールラインからフリーキックが与えられる。キックの場所は、ボールに最初に触れた地点からゴールラインに垂線を延長した地点である。しかし、もしも相手側チームのプレイヤーが最初にボールに触れたならば、そのチームにゴールラインの内側15ヤードの地点からフーキックが与えられる。その場所は、ボールに最初に触れた地点からゴールラインを超えて垂線を15ヤード延長した地点である。このとき、ゴール側のプレイヤーは、キックが終わるまでゴールラインの後方にいなければならない。



- 8.プレイヤーが踵でマークすると同時にフェアキャッチを要求すれば、彼にはフリーキックが与えられる。彼はフリーキックをするために彼の望むところまで後退してよい。相手側チームのプレイヤーは、彼がキックを終わるまで、マークを超えて進むことができない。
- 9.プレイヤーはボールをもって走ってはならない。
- 10.トリッピングやハッキングは許されない。また相手側プレイヤーをとらえたり、押したりするために手を使ってはならない。
- 11.プレイヤーは、ボールを手で投げたり、味方プレイヤーにパスしたりしてはならない。
- 12.インプレイ中に、どんな理由があろうとも、グラウンドからボールを手でとりあげてはならない。
- 13.靴の先端や踵に、釘、鉄片、ガッターバーチャーを取り付けてはならない。

参考文献

『最新スポーツ大事典』大修館書店1987年

中村敏雄『オフサイドはなぜ反則化』三省堂選書1985年

山本浩『フットボールの文化史』ちくま新書1998年

